

「リーマンショックが起きた日も下がらない」革命的ファンド誕生!?

凄腕ファンドマネージャーが語る 新時代のファンド運用

その卓越した運用能力で数々の受賞歴をもつ凄腕ファンドマネージャー竹村尚子氏が、「相場の下落局面でも、リターンが狙える」画期的な「ムーンライト・エイドスファンド(愛称:アマテラス)」をリリースした。既存のファンド運用を覆す、その革新的な商品性とは?竹村氏のオフィスで話をうかがった。(聞き手:マネーライター中津川あき子)



竹村尚子氏

ムーンライトキャピタル株式会社 代表取締役社長

大阪大学経済学部卒。米国大手年金基金の一つであるTIAA-CREFで初の非米国籍のファンドマネージャーとして3000億円の運用を担当。野村證券グループ、ボウエンキャピタルマネジメントにてオフショア日本株ファンドを担当し、1998年及び1997年から2001年の5年間で日本株ファンドのパフォーマンス第1位となり、S&Pより表彰される。2001年にForbes「世界のファンドマネージャートップ20」の一人に、また2009-2010年度の国際著名人年鑑「International WHO'S WHO of Professionals」の一人に選出される。



1998年
スタンダード
&プアーズ
オフショア
日本株部門
1位



2002年
スタンダード
&プアーズ
オフショア
日本株部門
1位



Forbes
「世界の
ファンド
マネージャ
ートップ20」

具体的な運用手法、
商品性を教えてください。

当ファンドはシステムトレッドモデルで運用しています。過去約20年間の膨大な相場データを駆使し、18種類の運用システムから、統括システムが、その日の相場に最も適した3つの運用システムを組み合わせて、増やすというよりも減らさないことを重視し、リスク低減を図っております。国内の短期公社債および日本国内の日経225先物・オプションで運用するため、昨今の世界情勢において懸念される為替リスクを気に

新ファンド開発の目的、
投資対象を教えてください。

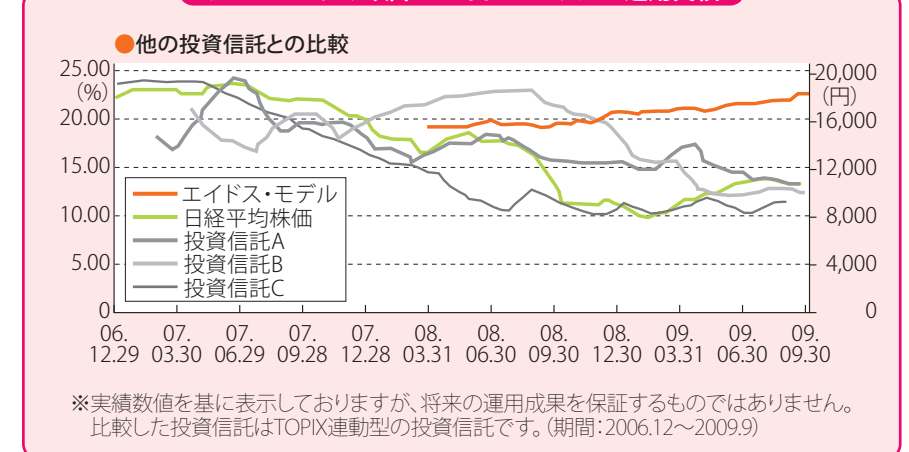
「今は一時的に下がっているだけ。」購入した株や投資信託が目減りすると、たいいていの人はそう思いがちです。しかし、一度下がったファンドの基準価額が短期間で戻るケースは稀。その証拠に、08年のリーマンショック以降、株式市場は世界規模で低迷しています。持ち続ければ何とかなる時代はとくに終わっているのです。今求められているのは、「どんな相場状況でも減らさないことを目指す」ファンドではないでしょうか。私たちが開発した運用手法「エイドス・モデル」は、まさにこの「減らさない」

運用を目指すことが
テーマになっていま
す。

「ムーンライト・エイドスファンド(愛称:アマテラス)」で活用されるエイドス・モデルは、様々な相場変動のストレステストを乗り越えてきました。例えば、国内外のファンドが大きく値を下げた08年9月のリーマンショックから、現在に至るまでの期間でも順調にパフォーマンスを積み上げています。一日の平均運用パフォーマンスは0.3%



リーマンショック以降のエイドス・モデルの運用実績



程度。これまでのポートフォリオは日経225先物・オプションがファンドの約5~6%で残りはコール等の運用でしたが、09年12月から募集開始した公募ファンド版では前者の比率を約10~20%に高め、年間10~15%以上のパフォーマンスを目指す予定です。

する必要はなく、解約時点での為替差損の心配もありません。運用においては、上げ相場・下げ相場、いかなる状況でも安定的にリターンが得られるスキームを確立しています。稀に、有効な対策が存在しない「異常な相場」では売買が自動的に抑制され、リスクをコントロールする仕組みになっています。荒れた海には近寄らない。リスク管理を徹底することで、次の投資チャンスに備えるわけです。

そして、もうひとつの特徴が「原則、宵越しのリスクを取らない」こと。デイトレীদের方はご存知だと思えますが、実は長期保有よりも日計りのほうがリスクを抑えられるケースが多いのです。日本の株式市場は、海外の要因の影響にも左右されます。当ファンドは夜間に異変が起きることを想定して、リスクを最小限に抑えるため日々のポジションを決済しています。

日計り運用なので、いつでも好きなタイミングで解約いただけます。解約手数料はゼ

口。信託報酬は、運用実績に応じて支払う「成果報酬」型です。私たちは、常にお客様と同じ目線で投資を考え、ともに利益を積み上げていきたいと考えています。

さらに、販売手数料も0円。販社であるインシア・スター証券さんからは、「せっかく顧客本位の商品設計をされているのに、販売会社が最初から手数料を多く頂いてしまったら、出し入れの度に手取りのお金が減ってしまい、ファンド自体の流動性をそこなうことになるので」という説明がありました。ファンドにかかわる全ての存在がwin-winの関係といえます。

わかりやすい運用方針と明確なリスク管理、日本市場で安定的に運用し、日本人に利益を還元する。派手さはありませんが、従来にない画期的な運用手法によるファンドだと思います。当ファンドなら、多くの方の資産運用ニーズに柔軟に答えられると自負しています。